TOREX IR REPORT VOL.25

第31期 報告書 2025.4.1 > 2026.3.31

CONTENTS

P1 トップメッセージ

5年後を見据えた中期経営計画を始動。変化を形にし、成果につなげます。

P5 特集 社屋移転プロジェクト

社内コミュニケーションを活性化させ、快適な環境でエンゲージメントを向上

P7 数字とエピソードで振り返る

アナログ電源ICのパイオニアが歩んだ軌跡、そして30周年のその先へ

P9 **新任役員からのごあいさつ**

P10 **会社情報**

裏表紙 **株式情報**

5年後を見据えた中期経営計画を始動。変化を形にし、成果につなげます。

代表取締役
社長執行役員
木村 岳史

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

エレクトロニクス市場では、AI関連を除く多くの分野で続いていた半導体・電子部品の在庫調整がこの1年で概ね解消され、需要が回復に向かいました。そうした中で当社グループの2026年3月期の業績は、すべての地域において売上高が増加し、コスト削減の効果も相俟って、過去2期続いた赤字から黒字への転換を果たすことができました。

2027年3月期は、「CMOS電源ICと半導体パワーデバイスで、持続的成長と共に省エネ社会を推進し、全てのステークホルダーが誇れる半導体企業へ」を方針に掲げた5ヵ年中期経営計画を始動します。

当社グループは、本計画を通じて、製品開発力の強化と生産性の向上、営業体制の拡充を図り、収益力を高めながら、持続的成長を実現するための基盤を築き上げてまいります。

Q 2026年3月期の営業状況を総括願います。

A **市場の復調を捉えながら、お客様のニーズに的確に対応し、業績の回復を果たしました。**

当期は、市場における在庫調整の解消を受け、アナログ電源ICの開発・販売を行うトレックス・セミコンダクター（以下、トレックス）と、ディスクリート半導体などの受託製造を行うフェニテックセミコンダクター（以下、フェニテック）がともに全地域（日本、アジア、欧州、北米）で増収し、利益の回復を遂げました。グループ全体の売上高は、ほぼ期初の計画通りに推移しましたが、利益面については、在庫圧縮が進んで棚卸評価損が減少したことに加え、経費の抑制や業務改善によるコスト削減効果が想定以上に進んだことから、期初の計画を大きく超える増益となりました。

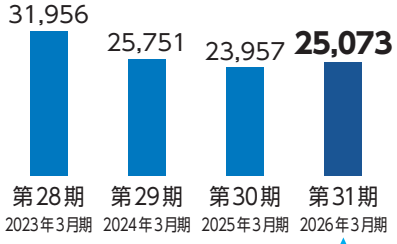
トレックスの営業状況は、車載機器分野の売上高が前期を下回ったものの、それ以外の重点分野は着実に増加し、特に産業機器分野は、下期から受注を堅調に伸ばして増収を牽引しました。

フェニテックの営業状況は、特に欧州のお客様向けの販売が増加し、アプリケーション別（顧客開示ベース）では、車載機器分野と医療機器分野が高い伸びを示しました。

市場の復調を捉えながら、競争力の強化に向けた製品開発と収益性改善の取り組みを継続し、FAE（フィールド・アプリケーション・エンジニア）を活用した営業展開でお客様のニーズに的確に対応したことにより、業績の回復を成し遂げた1年だったと受け止めています。

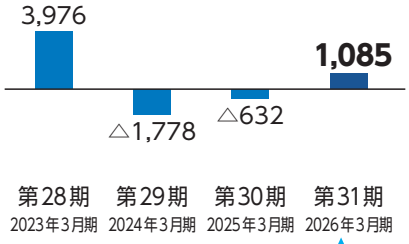
第31期 業績ハイライト

■ 売上高
（単位：百万円）



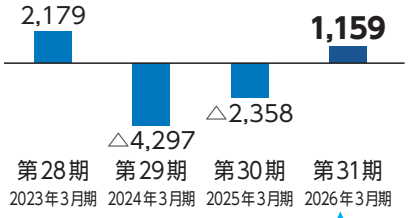
サプライチェーン上の在庫調整が解消に向かいつつあり、トレックス・フェニテック共に全地域で増収となりました。

■ 営業利益
（単位：百万円）



売上の増加に加え、経費抑制の取り組み効果もあり、トレックス・フェニテック共に増益となりました。

■ 親会社株主に帰属する当期純利益
（単位：百万円）



営業利益の増加と、為替差益の発生、前期に生じた減損損失の解消などにより、増益となりました。

Q 事業活動における新たな動きをご説明願います。

A 最先端のAI分野へ参入する一方、グローバル競争力の強化に向けて布石を打ちました。

これまでトレックスが提供する電源IC製品は、成長著しいAI関連分野との接点が大きくありませんでしたが、新たな事業展開として「フィジカルAI」へのアプローチを進めています。

フィジカルAIは、カメラやセンサーを通じて現実世界の情報を捉え、ロボットや自動運転車などの物理的な実体を自律的に動作させるものです。トレックスが培ってきた超小型化・省電力化の技術は、電源ICの高密度実装を可能とし、低消費性や低ノイズ性などの優れた製品性能で、センサーやマイコン、モーターの高度な機能を支えます。

今後は、ヒューマノイドロボットの実用化が進む中国市場や米国市場で、トレックス製品の強みを訴求し、電源ICの需要拡大を捉えていく考えです。

もう一つの新たな動きは、半導体製品の垂直統合型メーカーであるPANJIT INTERNATIONAL INC.(以下、PANJIT社)との協業展開です。2025年11月、半導体のパッケージ製造を手掛けるトレックスベトナム子会社の株式のうち、当社が保有する持分の95%について、PANJIT社に譲渡する旨の契約を締結しました。

当社グループとPANJIT社の業務提携が目指すのは、それぞれの強みを活かした水平分業によるグローバル市場での競争力強化です。今回の譲渡により当社グループにおける経営資源配分の最適化を図り、PANJIT社が持つ製造技術力と当社グループの設計開発力を掛け合わせたシナジーの創出に向けて、強固な協業体制を確立していきます。

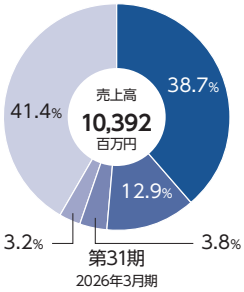
Q 中期経営計画の始動についてお聞かせください。

A 5年後の売上高360億円・営業利益45億円に向けて体制を整備し、スタートを切りました。

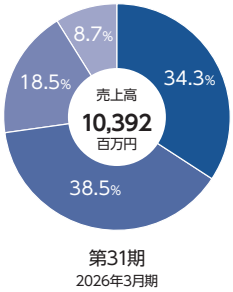
当社グループは、2025年11月に「FY2026 - FY2030中期経営計画」を発表し、これを2026年4月よりスタートさせました。それまでの4ヵ月間、社内では全従業員に計画内容の理解・浸透を促し、目指す方向性を共有する一方、計画の推進に向けて組織改編を実施し、開発本部、営業・マーケティング本部、生産本部の三つ

TOREX

アプリケーション別売上高(参考値)



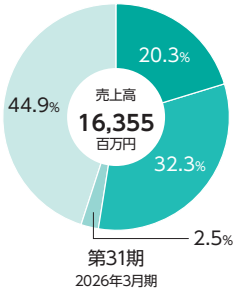
地域別売上高



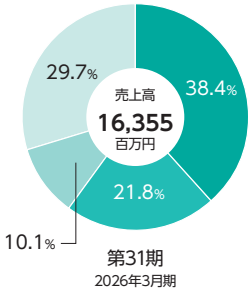
Phenitec

For Further Growth Together

アプリケーション別売上高(参考値)



地域別売上高



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

を「事業本部」に集約するなど、全社体制を整えていきました。

5年後に「売上高360億円」「営業利益45億円」を達成するための取り組みとして、トレックスでは、市場のニーズにマッチした開発で製品ラインナップを拡充し、競争力を高めると同時に、FAEと連携した営業活動のさらなる強化を図ります。フェニテックでは、生産体制に裏打ちされたファウンドリ事業の強みを維持し、収益性を向上させながら、SiCパワーデバイスなど次世代化合物半導体による新たな成長性を確保していきます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 新たな成長ステージへ飛躍すべく、中期経営計画の5年間で変化を形にしていきます。

株主の皆様への利益還元については、「連結配当性向20%以上」とし、「株主資本配当率(DOE)3%」を目標とする安定配当の継続を掲げています。これにもとづき今回の期末配当は、予定通り1株当たり28円を実施し、中間配当の同28円と合わせた年間配当額を同56円(前期同額)としました。中期経営計画期間中の利益還元は、基本的に同基準にもとづく配当を維持させていただく方針です。

当社グループは、フィジカルAIへのアプローチについてご説明しましたように、今までと異なる切り口も見せながら、新たな成長ステージへ飛躍したいと考えています。そのための変化を中期経営計画の5年間で形にし、成果につなげることで、株主の皆様の期待に応えてまいります。引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社内コミュニケーションを活性化させ、快適な環境でエンゲージメントを向上

事業本部 製品開発2部
部門長
金林 聡子

社員が主体的に立案・遂行した本社移転プロジェクト

2025年11月25日、中央区新川から江東区豊洲への本社移転が完了し、次世代型スマートビル「メブクス豊洲」5階での営業を開始しました。3フロアに分かれていた旧オフィスは、部門間の連携や情報共有に課題があったため、これを解消して社内コミュニケーションの活性化を図るとともに、職場環境の快適性を高め、社員エンゲージメントの向上につなげることが移転の目的です。

移転プロジェクトは2024年夏に発足し、会社主導ではなく、各部署から集められた社員がプロジェクトメンバーとなり、チームを組んで進めていきました。プロジェクト事務局の下に「IT分科会」「執務室分科会」「実験室分科会」の三つが置かれ、相互に連動しながら、全体計画および個別計画を立案・遂行する体制で、私自身は、執務室分科会と実験室分科会のリーダーを務めました。

私たちは、初めに「Collaboration（協働・共働）」「Creativity（創造）」「Contribution（貢献）」の三つの「C」を新オフィスのコンセプトに定め、全体のバランスを大切にしつつ要件を検討し、議論を重ねました。私にとっては、開発日程を遅滞させずに実験室を移設することも大きな課題でした。

自然に会話や相談が生まれるシチュエーションづくり

新オフィスの最大の特色は、社員が働く環境を自由に選べるABW(Activity Based Working)の導入です。執務室は、全体をガラス張りにした大きな空間に「作業集中エリア」「グループワークエリア」「コラボレーションエリア」や会議室など、業務に応じた多様な空間を用意し、役員を含む全社員をフリーアドレス化。自然に会話や相談が生まれるシチュエーションづくりにこだわりました。

実験室は、これまでコンプレッサーが大きな作動音を発生していましたが、これを別室にすることで、作業環境を大きく改善しました。実験室の手前には、森の中をイメージした緑化スペースを設けており、業務中のリラクゼーションを提供します。

リフレッシュメントによるウェルビーイングの向上にもこだわり、飲料と図書を用意した大理石テーブルのカフェスペースを執務室の中央に置き、社員が集まる憩いの場として機能させています。マザーズルームを備えた休養室も設置しました。

社員間の意思疎通や協力意識を高めて、一体感を醸成

本社移転から半年を経過し、特に大きな効果を感じているのは、「Collaboration(協働・共働)」の部分です。オープンで透明性と自由度の高いワンフロアへの集約が、社員同士の意思疎通や協力意識を高め、強い一体感を醸成しています。新オフィスに対する社員の満足度は極めて高く、来社されるお客様も自信を持ってお迎えしています。

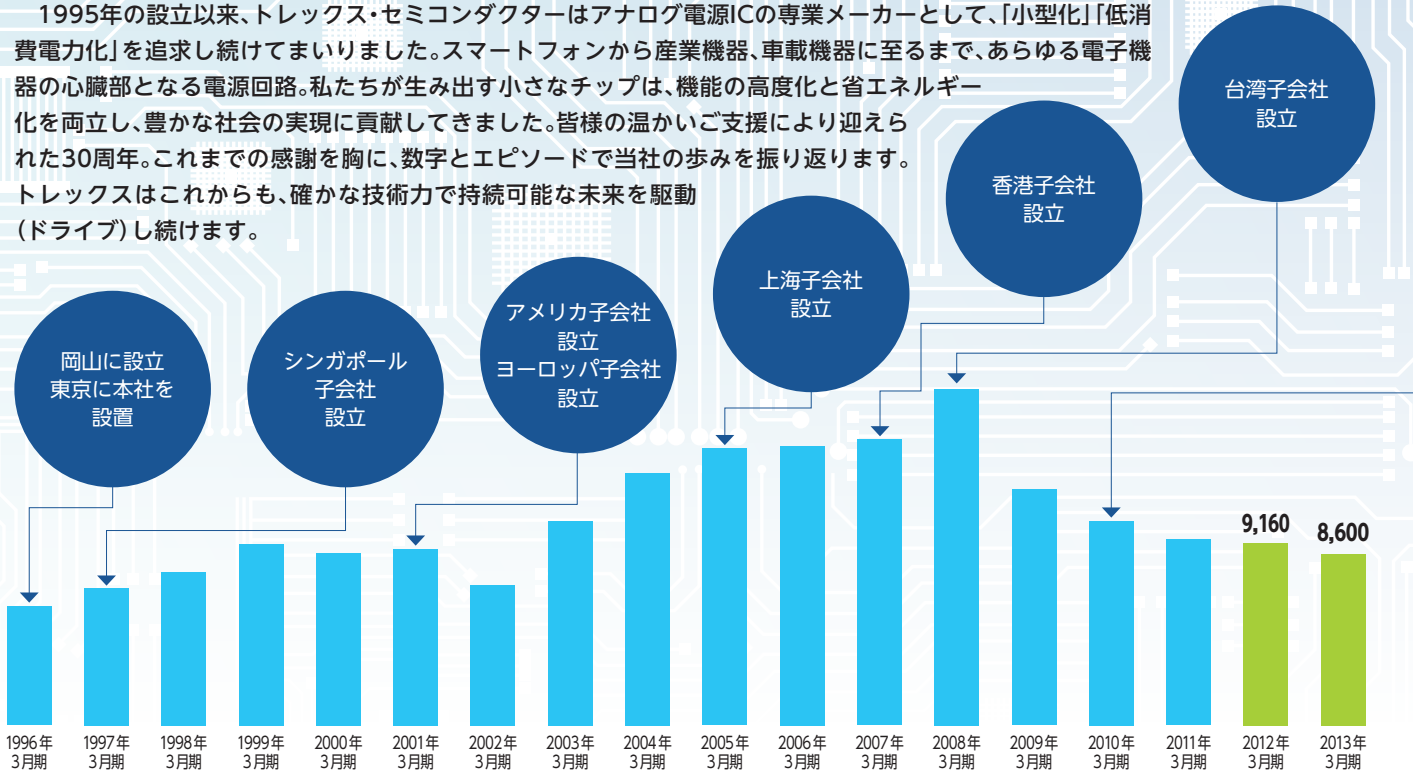
一方、移転プロジェクトで実行できなかった部分や改善したい部分もあり、社員の意見を聞きながら、引き続き取り組んでいく予定です。私自身、この本社移転を通じて社内・社外から学んだことが多くあり、これからの仕事に活かしたいと思います。

数字とエピソードで振り返る

アナログ電源ICのパイオニアが歩んだ軌跡、そして30周年のその先へ

見えない場所から、世界の進化を支え続ける。

1995年の設立以来、トレックス・セミコンダクターはアナログ電源ICの専業メーカーとして、「小型化」「低消費電力化」を追求し続けてまいりました。スマートフォンから産業機器、車載機器に至るまで、あらゆる電子機器の心臓部となる電源回路。私たちが生み出す小さなチップは、機能の高度化と省エネルギー化を両立し、豊かな社会の実現に貢献してきました。皆様の温かいご支援により迎えられた30周年。これまでの感謝を胸に、数字とエピソードで当社の歩みを振り返ります。トレックスはこれからも、確かな技術力で持続可能な未来を駆動（ドライブ）し続けます。



売上高・配当金の推移

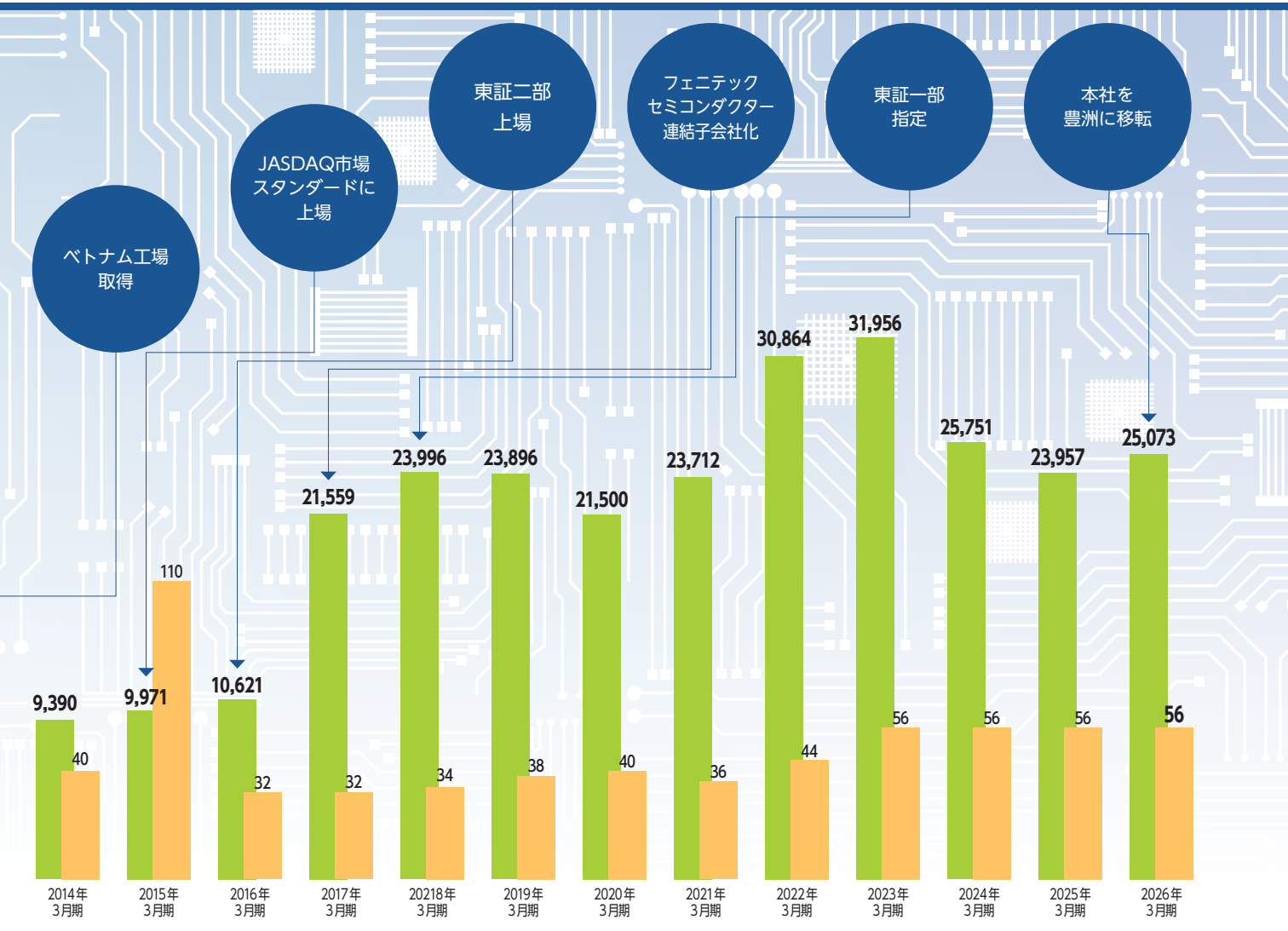
■ 売上高（単位：百万円）
（■単体／■連結）
■ 配当金（単位：円）

1992年～
携帯型カセットプレーヤー

ニッケル水素二次電池を使用した携帯型カセットプレーヤーでXC61ANシリーズが採用されました。プレーヤーがギリギリ稼動できる0.8Vを正確に検知するという、当時としては大変厳しい要求でしたが、この実現によって長時間再生を可能にしました。

1996年
ページャー（無線呼出用携帯受信機）

ノイズ軽減のために「効率をあえて落とす」という逆転の発想で内部発振回路の提案を行い、DC/DCコンバータXC6373/XC6383シリーズが採用されました。



2016年
フェニテックと資本提携

フェニテックセミコンダクターとの資本業務提携により、産業機器、車載機器等に向けた高付加価値製品の長期安定供給体制を確立しました。

2025年
本社移転

従業員エンゲージメント向上と持続的な企業成長を目指し、本社を移転しました。全席フリーアドレスのABW導入や充実したリフレッシュ空間による働き方改革を推進。最高水準の環境評価を取得した新オフィスで「協働・創造・貢献」を実現します。

2026年～
次世代フィジカルAI分野

ヒューマノイドロボット等、現実世界で動作するAI分野に注力します。多数の受賞歴が証明する当社の「小型・省電力」な電源ICは、センサーやモーター駆動において高性能を発揮し、次世代AIの発展を支えます。

新たな経営陣に、経験豊かなお二人を迎えます。
それぞれの分野で培われた経験を活かしていただき、
当社の持続的な企業価値向上につなげてまいります。

社外取締役　監査等委員　**本多 道昌**

東京湾の風薫る豊洲。

明るくゆったりとした当社本社オフィスに足を踏み入れると、私より随分と若い世代の皆さんが、少しだけ仕事の手を休めて挨拶を交わしてくださいました。

この度株主の皆様より、この会社で新たなチャレンジをさせていただく機会を頂きました。誠にありがとうございます。お客様や従業員・取引先の皆様、そして社会への責務を十分に当社が果たした上で、株主の皆様へお届けすべき価値を最大化する。揺るぎないこのミッションの達成に向け、力を尽くして参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

社外取締役　監査等委員　**今出 達也**

グローバル資本市場の荒波の中を泳ぎ始めてから36年、米国から帰国後は、日本企業の資本市場での国際競争力強化を応援するという志で、コーポレートガバナンス研究と支援事業の創業から拡大まで25年を歩み、上場企業の株主との対話を通じた様々な課題の解決に協力してきました。

独立社外取締役監査等委員の職務は初めてですが、これまでの経験を活かし自ら実践していく機会と捉え、世界の未来を担う産業の一員としての当社の持続的価値創造に、地道にかつ客観性を礎に貢献して参る所存です。

会社概要

社　　名	トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地	東京都江東区豊洲六丁目4番34号 メブクス豊洲 5階
設　　立	平成7年(1995年)3月
資 本 金	29億6,793万円
事業内容	1. 半導体デバイスの開発、設計、製造 2. 半導体デバイスの販売
従業員数	連結／1,014名　個別／181名

役員一覧 (2026年6月24日現在)

取締役（監査等委員である取締役を除く）

代表取締役 会長執行役員	芝宮孝司（しばみやこうじ）
代表取締役 社長執行役員	木村岳史（きむらたけし）
取締役 執行役員	宮田敬史（みやたかし）
取締役 執行役員	櫻井茂樹（さくらいしげき）
取締役 執行役員	前川貴（まえがわたかし）
取締役 執行役員	山本智晴（やまもともはる）
取締役	石井弘幸（いしいひろゆき）

監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外)	本多道昌（ほんだみちまさ）
監査等委員(社外)	廣瀬由美（ひろせゆみ）
監査等委員(社外)	薗田聡（そのださとし）
監査等委員(社外)	今出達也（いまでたつや）

当社の最新情報は WEBサイトでご覧いただけます。

https://www.torex.co.jp/

トレックス

❶

トレックスのサステナビリティ

❷

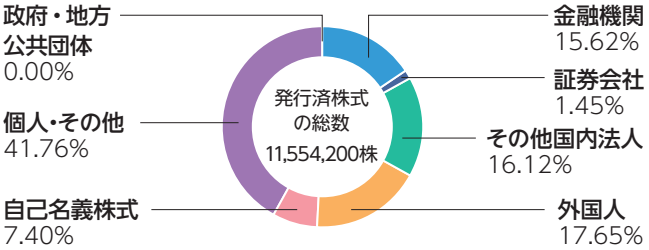
投資家の皆さまへ

株式情報（2026年3月31日現在）

株式の状況

発行可能株式総数.....36,673,600 株
発行済株式の総数.....11,554,200 株
株主数 ..... 4,546 名

所有者別株式分布

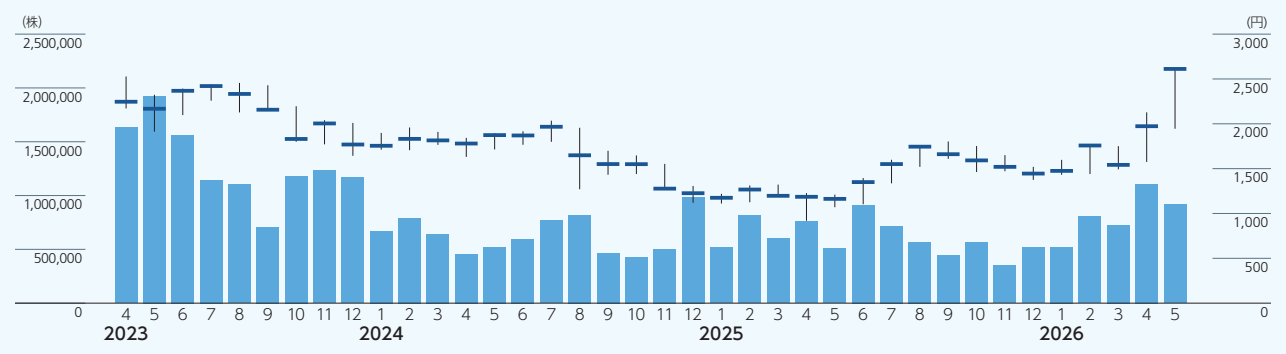


大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（千株）	持株比率（%）
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	1,408	13.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	941	8.80
藤阪　知之	483	4.52
株式会社中国銀行	472	4.41
アルス株式会社	452	4.22
吉備興業株式会社	397	3.72
尾崎　貴紀	321	3.00
芝宮　孝司	299	2.80
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	293	2.74
JAPAN ABSOLUTE VALUE FUND	259	2.42

※1 当社は、自己株式を854,733株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価の推移



株主メモ

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先・連絡先	（郵便物送付先）〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号（連絡先）0120-782-031

トレックス・セミコンダクター株式会社
〒135-0061　東京都江東区豊洲六丁目４番34号
メブクス豊洲 ５階
TEL（03）6222-2851

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

GREEN PRINTING JFPI
P-A10007
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C022915